

2026年度 第1回 藤沢市立六会中学校 学校運営協議会議事録

開催日時 2026年 5月 28日（木）10時～
場 所 六会中学校 第一会議室

○出席者 10名

滝内 洋子 （前学園都市むつあい協力者会議会長）
五十嵐 直美 （地域コーディネーター）
堀田 英二 （前六会地区自治連合会会長、六会中学校学習支援員）
山本 裕章 （六会地区青少年育成協力会副会長）
人見 甲子郎 （フリースクール（森の仔じゅうがっこう）事務局長）
石川 遥菜 （六会地区担当CSW（コミュニティソーシャルワーカー））
石川 智美 （六会中学校保護者）
石原 知香 （六会中学校保護者）
加瀬 晶 （六会中学校校長）
荒川 洋 （六会中学校教頭）

○欠席者 3名

尾方 典子 （六会地区民生委員児童委員協議会副会長）
江添 達男 （六会市民センター長）
堀 千鶴 （六会中学校同窓会長）

*傍聴者 無し

1.開会 加瀬校長挨拶

2.委嘱状の交付

3.自己紹介

4.会長ならびに副会長の選出

- ・会長の選出: 委員の互選により、五十嵐委員が会長に選出
- ・副会長の選出: 五十嵐会長の指名により、加瀬校長が副会長に選任
会長および副会長(校長)より、就任の挨拶
※会議の傍聴についての確認（荒川委員）

5.議題

- ・令和8年度藤沢市立六会中学校 学校運営方針について
学校教育目標と挨拶運動: 誰もが心地いい学校づくりを目指し、前年度の目標を踏襲。
「挨拶・優しさ・感謝」を柱に据え、笑顔を心のバロメーターとした指導を地域とともに推進していく方針が示された。

6.その他

- (1) 昨年度の取り組みの経過について、および特別支援学級「10組」の見学と意見交換

【裏面へ】

※本議題の進行中、今年度から新たに開級した特別支援学級「10組」の様子をより深く理解するため、会議を一時中断し、委員一同で10組の教室見学を実施した。

(委員): 廊下に窓があり、明るくゆったりとした空間になっていて非常に良い印象を受けた。現在5名の子供たちが在籍しているが、様々な活動をのびのびと展開できそうだと感じた。床の一部に絨毯エリアなどを設ければ、子供も大人も座り込んで落ち着いて話し込める場所が作れるのではないかと。

(委員): 放課後の学習支援に携わっているが、進級して2年生になった生徒たちが非常に落ち着いて取り組むようになり、今後の成長が楽しみである。

(委員): 新設されたばかりで、通常級の生徒たちも積極的に関わろうとしてくれている。しかし、「支援級の子に関わることが“良いこと(ボランティア精神・特別視)”という価値観になってしまうのは、思春期の判断基準を作る上で危うさもある。何かをしてあげるという姿勢ではなく、「当たり前前にそこにいて、共に過ごすのが普通である」という空気感を、大人が中心となって作っていかねばならないと強く感じる。

(委員): 虐待防止支援などの経験から見ても、近年は多忙な保護者が増え、子供に関わる大人が減っていると感じる。特に中学生は小学生とも高校生とも違う不安定な狭間の時期にいたため、地域の大人が少しでも力になれるよう、コミスクとしても関わりを模索したい。

(委員): 10組が開級するまでにこれほど多くの議論や人々の思いがあったことを知り、改めて恵まれた環境であると感じている。障害を持つ子供を地域の中でどう育てるか悩んできたが、学校や地域全体で「当たり前」として一緒に過ごせていることは非常にありがたい。

(校長): 10組の開級にあたっては、生徒会が本を集めたり飾り付けをしたりと、非常に温かいゼロスタートが切れた。現在は体育祭の苦労を経て、職員の心づもり以上に通常級の生徒とも早く馴染んでいる。一方で物資などの面で地域に頼りたい部分もある。例えば、10組発案のイベントとして七夕の笹飾り(学校全体で願い事を書く)を企画しているが、地域から大きな笹を切り出す手助けがあればありがたい。また、ビオトープ横を10組の畑(トマトやオクラ、ジャガイモ等)として開墾したが石が多く、5名の生徒だけでは整備が厳しいため、地域のボランティアを募って美化委員会などとコラボしながら草刈りや畑の整備を行いたい。ゆくゆくは収穫したものを文化祭などで販売し、子供たちの活動に還元できればと考えている。

(2) 今後の会議日程(案)について

第2回: 9月29日(火)10:00~(第1会議室)

第3回: 12月15日(火)10:00~(第1会議室)

第4回: 2月25日(木)10:00~(第1会議室)

7.閉会